

ちいきそらぞり



第10号

2014.12.20

主な内容

就任にあたって	理事長 山岸 守…… 1	北陸新幹線開業に向けて	糸魚川地域振興局地域整備部長 荻原 寿彦 … 3
『にいがた地域創造センターに期待します』	新潟県土木部技監 佐野 裕…… 2	身近な社会資本の見学会	新潟地域整備部部長 丸山 朝夫…… 4
退任に当たって	前理事長 植木 昭一…… 2	活動状況報告	6
「地域懇談会 in 糸魚川」活動報告	…… 3	河川情報モニター実施報告及び	
		都市公園情報モニター実施報告	…… 7



就任にあたって

理事長 山岸 守

いつの間にか新潟平野に白鳥の集団が群れをなし、遠い山並みが真っ白い冬景色の季節になりました。

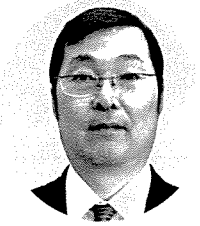
にいがた地域創造センターの会員の皆様、賛助会員の皆様、健やかにご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃からの当センター活動へのご支援ご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、私はこのたびの理事会において、植木理事長の後任として新理事長の役を仰せつかりました。初代松井理事長、藤原理事長、島原理事長、植木理事長とそうそうたる諸先輩の後任としての大役に、身の引き締まる思いではありますが、精一杯頑張るつもりであります。会員、賛助会員の皆様に引き続き力強いご支援をいただけますようお願いいたします。

当センターは、昨年設立10周年を迎えました。この10年間、中越大震災や、水害などの災害時の「現地調査」、「査定準備支援」、査定前の「現場研修会」等のほか、平常時は「河川情報モニター」、「新潟県都市公園情報モニター」、「都市緑化フェアでの植樹寄贈・植樹作業」等を行ってきました。また、一昨年の村上に続き今年は糸魚川で「地域別懇談会」を行いました。

今年は、新潟地震から50年、中越大震災から10年の節目の年でした。災害の初期の対応や復旧作業には建設産業はなくてはならない存在ですが、社会的にはあまり評価されていないようです。自衛隊や警察の活動は華々しく取り上げられているものの、建設産業の活動はほとんど目にする事がありません。なんとか建設産業をアピールできないかと思っていた中、昨年3月に新潟県土木部から、建設産業のイメージアップ、人材確保に資する企画の提案実施の要請がありました。当センターは、「身近な社会資本の見学会」～私たちの住む街は水面下～というテーマで、通船川山の下閘門の見学会を提案し、幸いにも新潟県と受託契約を結ぶことができました。昨年は新潟工業高校、本年は三条の県央工業高校の生徒さんを対象に見学会を行いました。今年はマスコミにも取り上げられました。こうした活動を通じささやかではありますが、会の趣旨である社会貢献や地域の活性化のお手伝いのできたのではないかと考えております。これからも機会があれば、賛助会員の皆様の活躍ぶりや、社会資本の役割の理解を広める活動も続けていきたいと思っております。

当会の会員は、県職を退職した人たちの集まりです。圧倒的に還暦を過ぎたメンバーです。じっくりゆっくり一歩ずつ、「ふるさと新潟」のお役に立てるよう活動していきたいと考えておりますので、皆様に一層のご支援ご協力をお願いし、就任のご挨拶とさせていただきます。



『にいがた地域創造センターに期待します』

新潟県土木部技監 佐野 裕

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

これまで建設産業を取り巻く環境は厳しいものがありましたが、本年6月に改正品確法をはじめとする「担い手3法」が公布され、公共工事の品質確保とその担い手の中長期的な育成・確保など発注者の責務が明確化されました。とりわけ施工者の『適正な利潤』の確保が発注者の責務として条文化された意義は極めて大きいと考えています。さらに今後増大していく社会資本の維持管理・更新需要に対応する人材不足が懸念されていることから、関係機関と連携を図りながら、建設産業の魅力や重要性の情報発信など、人材確保・育成に向けた取組を進め、今後とも健全で活力ある建設産業の発展に努めていくことが重要となります。

また、本年は新潟地震から50年、7.13新潟福島豪雨及び中越大震災から10年という大災害の節目の年です。県では、引き続き貴センターの優れた組織力や高度な技術力による支援をいただきながら、全国で多発するこれまで経験したことがない『想定外の災害』に対しても、県民の安全・安心を確保するためにしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも建設技術を通じて社会貢献を担う貴センターの災害時を含めた様々な活動に期待するとともに、皆様の益々の発展を祈念いたします。



退任に当たって

前理事長 植木 昭一

平成24年度から2年間、島原さんの後任として当センターの運営に携わり、このたび理事長を退任させて頂くことになりました。大変にお世話になりました。

その間、昨年6月には、「設立10周年記念祝賀会」を、盛大に開催することが出来ました。また、従来からの河川・公園巡視等の社会貢献活動の他に、新たに県からの要請により、昨年、今年と「身近な社会資本の見学会」として工業高校建設系の生徒をインフラ施設に案内し、少なからず建設産業の魅力を発信することが出来ました。

これらの当センター活動では、理事・各部の部長はもとより関係した部員・会員の皆様には、その都度積極的に協力して頂き、さすが「昔取った杵柄！」と感謝申し上げます。

最後に、当センターの更なる発展と会員の皆様のご健勝を祈念して、退任の挨拶といたします。大変ありがとうございました。

「地域懇談会 in 糸魚川」活動報告

業 務 部

地域懇談会とは……、当法人はまだまだ関係の方々には知名度が低いのでは……、どんどん地域に出向き、PRすることが必要とスタートしました。第1回は北の玄関口の村上で始まり、今回は西の玄関口糸魚川で開催しました。

平成26年10月16日（木）に正会員25名、賛助会員3名、県・市関係16名、一般参加者15名、総数59名で盛大に開催されました。

初めに、植木昭一理事長から、センター設立趣旨や県との連携事業、自主事業などを紹介し、賛助会員への入会でご支援のお願いをしました。

続いて、「日本列島 東西文化が会おうまち」北陸新幹線開業に向けた糸魚川世界ジオパークの取組と題して糸魚川市ジオパーク推進室長の渡辺成剛氏から講演を、場慣れしており、言葉巧みな話術で時間が経過し、大変有意義な講演でした。糸魚川は東と西の文化が実感できるまちであり、一例として灯油のポリ容器の色が新潟（東）は赤、富山（西）は青で販売されています。気が付いた方、何人？

最後に、「県の地域振興と公共事業について」糸魚川地域整備部長の荻原寿彦氏から地域の険しい地形や脆弱な地質で過去にすべての自然災害を受け、復旧された事例や北陸新幹線開業に向けたアクセス道路の進捗などが紹介されました。

両氏共に、新幹線開業に対し、観光の広域連携の重要性や糸魚川の観光資源の情報発信により交流人口の拡大が期待されると報告されました。

その後の懇親会では、懐かしい人たちとの和やかな会話があちこちで花が咲き、有意義な意見交換となりました。地域懇談会を企画し、初期の目的に少しは貢献できたように感じました。

参加頂きました県・市関係、正会員、賛助会員、一般企業の皆様にはお礼申し上げます。



北陸新幹線開業に向けて

糸魚川地域振興局地域整備部長 荻原 寿彦

糸魚川地域整備部では、①安全安心の確保 ②産業の振興 ③交流人口の拡大に資する事業を実施していますが、特に来年3月14日に開業を迎える北陸新幹線関連事業について紹介します。

都市計画道路「中央大通り線」は、国道148号側の約0.3kmを年内に開通させ全体約4kmが供用予定です。これにより、新幹線開業を機に整備された糸魚川駅アルプス口や公共公益施設のアクセスが向上するほか、国道8号の交通集中解消等にも寄与すると考えております。

糸魚川停車場線電線共同溝事業は、デザインブロック等による舗装復旧工事を年内に完了予定で、地元商店街のアーケード整備とあわせ糸魚川駅日本海口の良好な景観を形成し、中心市街地の賑わいが創出されます。

にいがた地域創造センターの皆様には、地域懇談会を通じて糸魚川駅周辺の街並み整備や世界ジオパークの見所等、糸魚川地域の魅力について、ともに情報発信し開業機運を盛り上げていただければ幸いです。

結びに、地域懇談会において、当部の事業を紹介する機会をいただいたことに心より感謝申し上げますとともに、貴センターの益々の御発展と会員の皆様の御健勝を祈念申し上げます。

NPO法人にいがた地域創造センターと連携した地域を支える建設産業の底力発信事業



身近な社会資本の見学会

新潟地域整備部部長 丸山 朝夫

県では、地域を支える建設産業振興のため、暮らしを守る建設産業の魅力と重要性を県民に広く知ってもらおうとともに、担い手の中長期的な育成や確保に向けた取り組みを進めています。その一環として、新潟地域整備部では、将来の建設産業を担う工業系の高校生を対象として、昨年に引き続きNPO法人にいがた地域創造センターとの協働作業により「身近な社会資本の見学会」を開催しました。

今年の見学会は、昨年「都市防災コース」が設置された県立新潟県央工業高等学校から、建築コース及び都市防災コースの2年生、計36名の参加を得て、新潟市山の下にある「山の下閘門排水機場」を見学し、なぜこのような施設が必要なのか？を知り、建設産業の魅力と重要性を理解してもらうことを目的として実施しました。

見学会では、まず、通船川下流に位置する山の下閘門排水機場で、通船川の成り立ちや山の下閘門排水機場の役割、新潟のゼロメートル地帯や地盤沈下に関することを、映像・模型を使って理解を深めてもらいました。

その後、実際に船に乗って閘門を通過し、通船川と信濃川の水位差約2メートルを体感してもらった後、信濃川を周回しながら橋梁下面の状況を確認したり、通船川県営貯木場の利用状況を見学する等、土木施設の重要性を実感してもらい、下船後、朱鷺メッセ展望室から新潟市街を見ながら、見学・体験したコースの振り返りを行いました。当日夕方のニュースでは、参加した高校生が「土木施設の重要性が良くわかった」と答える姿が放送され、建設産業の魅力と重要性を十分に伝えることができたのではないかと考えております。

最後になりますが、当見学会の企画・運営をしていただいた貴センターの皆様にお礼申し上げますとともに、今後のますますの御発展をお祈り申し上げます。

見学会体験生徒（新潟工業高校生）の感想

「施設見学会レポート」より

- 「ふだん体験できないようなことが体験でき、特に気になっていた信濃川と通船川で水位が全く違う合流点で、どうやって船が行き来するかが分かりやすい説明で理解できました。」
- 乗船体験では「2メートルの水位差を実感した。」とともに「橋の下を通ったときは、NPOの人が橋の構造を詳しく教えてくれたので、施工の授業や力学の授業に少しでも活かしていけるように頑張りたいと思いました。」
- 朱鷺メッセの展望室からは「新潟市内を見回して、排水機場が無くなると今見ている場所のほとんどが水没すると言うことが信じられませんでした。」「今までは、水害などの災害をあまり考え



主催者挨拶



マスコミによる取材情况



模型で地盤沈下の説明



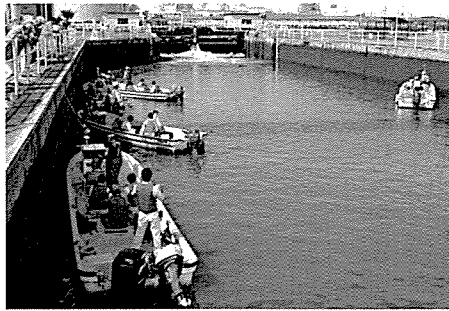
聞き入る生徒

たことは無かったのですが、今回の見学で深く考えさせられました。」

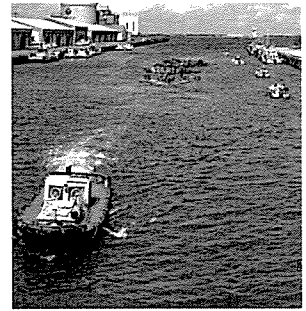
○「ふだんよく使う道路や橋があるのは当たり前じゃないと感じ、感謝して暮らしていきたい。」「新潟にとって重要な施設を見学させていただいて、得るものがたくさんあり、とても充実した良い経験となりました。ありがとうございました。」

○そして、複数の生徒から「見学場所で説明して下さった方々の思いがとても熱く感じられました。」といった感想もありました。

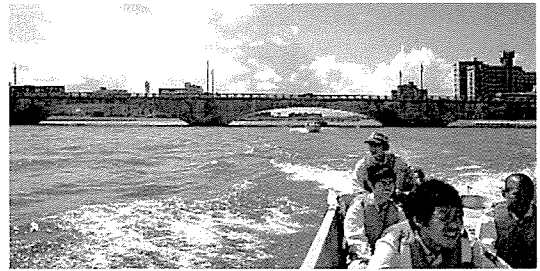
まだまだ多くの感想があるのですが、全部を紹介できないのが残念です。



水位差体験



萬代橋



■受託者（NPO法人にいがた地域創造センター）の感想

生徒の感想の最後に「新潟のこれからの未来を考えなければならぬ。」「この経験は、これからの進路に繋がっていくと思うので、忘れないようにしていきたい。」とありました。この企画の最終目的が達成できたのではないかと考えています。



朱鷺メッセからの振り返り

登録有形文化財パネル展

（第11回 万内川砂防公園サマーフェスティバル）

登録有形文化財のパネル展は毎年、万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環として妙高市にある、道の駅あらい内「くびき野情報館」で行われております。

今年は、7月24日～30日の1週間で約270名の方が来場されました。

展示内容は登録有形文化財に指定となった、万内川石積堰堤群・日影沢石積床固工群の写真パネルや過去に起きた土砂災害及び土砂災害防止に関する啓蒙パネル、斐太南小学校の4・5・6年生による「万内川で遊んだ僕たち」の絵画、昔遊びの道具等を掲示し、大人から子供まで幅広く見ていただけるパネルを展示しました。

道の駅あらいは上信越道新井PAと国道8号に接し利便性が良いため、地元をはじめ県外の方々や夏休み中の親子連れなどが訪れ好評を博しております。

運営は妙高砂防事務所と連携し、NPO法人にいがた地域創造センター、NPO法人新潟県砂防ボランティア協会のスタッフがあたり、来場者に展示パネル等の説明等を行っております。



パネル展 案内看板



パネルに見入る子供たち

活動状況報告

(平成25年11月～平成26年10月まで)

■平成25年

- 11月19日 第38回理事・監事会議 (技術士センタービル8階)
・平成25年度総会開催について
・平成24年度決算について
・平成25年度予算(案)について
・平成25年度講演会講師及び演題について
・「新潟県土木部広報事業への協力依頼」の実施状況について

植木理事長以下18名(全21名)

- 12月13日 第39回理事・監事会議(新潟東映ホテル3階会議室)
・平成25年度総会(資料の確認)について
・備品(パソコン)の更新について
・事務職員の休暇について

植木理事長以下18名(全21名)

- 平成25年度通常総会 (新潟東映ホテル)
・平成24年度事業報告及び収支決算の承認について
・平成25年度事業報告及び収支予算(案)について
(正会員296名内出席者100名委任状提出者149名)

講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)

- ・講師 新潟歴史博物館 学芸課長 小林 隆 幸 氏
・演題 新潟美人のルーツを訪ねて



■平成26年

- 2月18日 河川情報モニター会議 (技術士センタービル8階)
・新潟県の河川管理について
・平成26年河川情報モニターの実施計画について
・平成25年度河川情報モニターの実施に関する問題等について

河川管理課4名、地区担当者13名、NPO5名、計22名

- 2月25日 「平成25年度 県土木部広報事業への協力依頼」について

・懇談会及び懇親会 (植木理事長以下14名)

- 3月28日 課題事前打合せ (建設技術センターNPO事務局)
・地域懇談会について
・平成26年度新潟県土木部広報事業について

理事長、2副理事長、総務・業務・広報部長

- 4月27日 第27回新潟県都市緑化フェア(新潟県スポーツ公園)
植木理事長以下 5名



- 5月21日 第40回理事・監事会議 (建設技術センター3階研修室)

- ・地域懇談会の開催について
・新潟県土木部広報事業について
・事務職員の処遇について

植木理事長以下15名(全21名)

- 6月23日 地域を支える建設産業の底力発信事業
「身近な社会資本の見学会」の概要説明・担当者会議

(新潟合同庁舎3階会議室)(14名参加)

- ・身近な社会資本の見学会の実施概要について
・運営スタッフ体制について
・主催者、実施者の業務分担について

- 7月16日 にかがた道の研究会第12回トーク会 (新潟会館)
[支援事業]・山岸副理事長他(会員外含め)56名

- 7月24～30日 パネル展「道の駅 あらい」くびき野情報館
(万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
[支援事業]・来場者、スタッフ(会員含む)約270名

- 8月9日 万内川砂防公園サマーフェスティバル (万内川砂防公園)
[支援事業]・来場者、スタッフ(会員含む)約980名

- 9月1日 第41回理事・監事会議 (海彦)
・県土木部広報事業見学会について
・地域懇談会(糸魚川)の開催について
・物品販売の廃止について
・今年度の総会(開催日、講演会(案))について
・役員(理事・監事)交代の人選について
・事務職員の交代人事について

植木理事長以下15名(全21名)

- 9月8日 「平成26年度身近な社会資本の見学会」の担当者会議 (新潟合同庁舎3階 入札室)
・「身近な社会資本の見学会」の実施概要について
・実施日の担当及び役割について
・実施日は9月16日(火)とし、予備日は9月19日(金)とする
(植木理事長以下14名参加)

- 9月16日 「平成26年度県土木部広報事業」の現場研修実施
・対象者: 県央工業高校 生徒36名、引率者4名、船5隻
・新潟地域における地盤沈下の状況を模型を使用して説明
・乗船し信濃川と通船川の水位差を体験し、橋脚や橋桁の状況見学
・ホテル日航展望台からの新潟市東地区における信濃川・通船川及び山ノ下開門の位置及び役割を確認

土木部・棚橋企画調整室長以下2名、新潟地域整備部・鈴木副部長以下2名、NPO法人・植木理事長以下18名

- 10月16日 「第2回地域懇談会in糸魚川」を実施
・NPO 法人にかがた地域創造センターについて
理事長 植木 昭一
・講演-1 糸魚川市ジオパーク推進室

室長 渡辺 成剛氏

演題 日本列島 東西文化が出会うまち
北陸新幹線開業に向けた糸魚川世界ジオパークの取組み

- ・講演-2 新潟県糸魚川地域整備部
部長 荻原 寿彦氏

演題 県の地域振興、公共事業について
・参加者 正会員:24名、賛助会員:3名、県職員:16名、糸魚川市職員:2名、一般参加者:15名
合計60名

- 10月17日 (一財)新潟県建設技術センター
「創立30周年記念式典」(新潟グランドホテル)
・植木理事長出席

- 10月23日 新潟県中越地震10周年合同追悼式
(シティホールプラザアオーレ長岡 アリーナ)
・主催:新潟県、長岡市、小千谷市、十日町市、見附市、魚沼市、南魚沼市

植木理事長出席

- 10月24日 北陸地区治水大会 (新潟グランドホテル)
・主催:新潟県、全国治水期成同盟会連合会、新潟県河川協会
植木理事長出席

河川情報モニター実施報告

業 務 部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も9年目となりました。平成26年は、147名（延べ489名）の会員の皆さまのご協力により、4～10月で4回程度132河川の巡視を無事に行うことが出来ました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化・一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えた御協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

■平成26年（4月～9月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人数
	主 任	副 任				
村 上	伊藤 勝夫	石山 一男	9	23.5	5	12
新 発 田	渋谷 吉則	伊藤 闊男	1	27.0	11	36
新 津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.1	20	66
津 川	永井 将裕	伊藤 恒彦	4	17.5	3	9
新 湍	鈴木 政義	宇留間廣久	6	45.6	11	11
巻	真田 明	高橋 宗男	7	138.4	11	38
三 条	河内 孝	—	13	102.6	8	32
長 岡	吉野 利夫	清水 洋一	9	111.9	27	101
与 板	吉野 利夫	清水 洋一	3	47.0		
小 千 谷	吉野 利夫	清水 洋一	10	39.0		
魚 沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	3	12
十 日 町	田口 耕平	井口 久雄	7	65.0	12	37
南 魚 沼	星野 正昭	中澤 淳一	3	30.2	3	12
柏 崎	赤堀 洋一	関矢 勝広	3	49.2	6	24
上越・上越東	大塚 和雄	金子 進	9	137.3	16	64
糸 魚 川	金子 進	大塚 和雄	3	40.6	4	11
佐 渡	佐々木敏和	小鷹 賢正	11	60.6	7	24
計			132	1089.9	147	489

都市公園情報モニター実施報告

業 務 部

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

■平成26年 都市公園モニター担当者

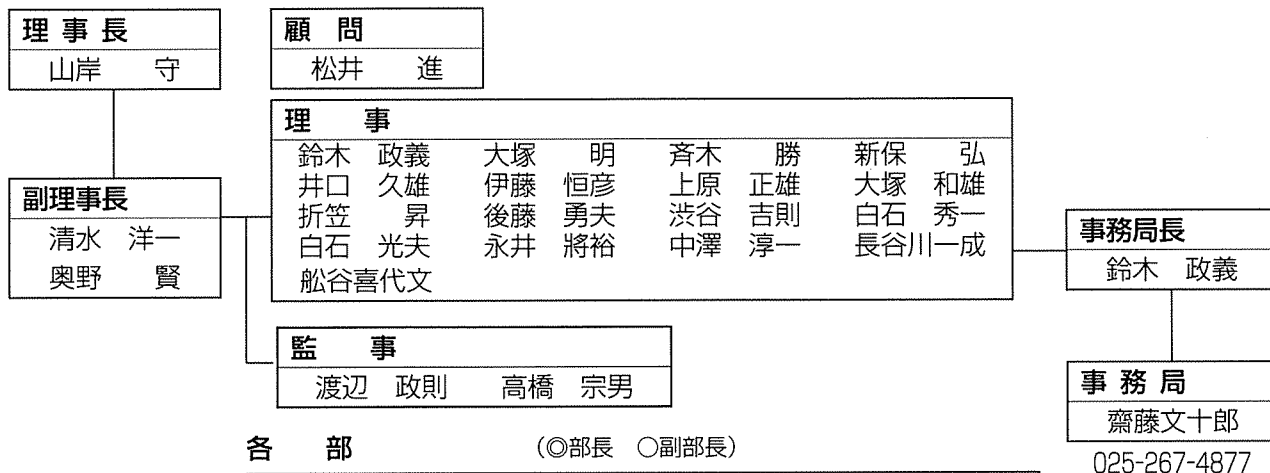
公 園 名	担 当 者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	鈴木 輝正	中澤 敏雄
聖籠緑地・島見緑地	野崎 和久	船谷喜代文
鳥屋野公園女池・鐘木地区	永井 将裕	鈴木 政義
スポーツ公園北地区	西片 喜章	岡部 登
スポーツ公園南地区	奥野 賢	山岸 守
県立植物園	後藤 勇夫	寺尾伸英一
大湍水と森の公園	青木 完	金子 進



□当NPO法人の役員は下記のとおり改選されました。(任期2年)

なお、併せて各部員は次のとおりとなりました。

◆ **組 織 図** (理事20、監事2)



各 部 (◎部長 ○副部長)

総務部					
◎鈴木 政義	永井 将裕	鈴木 久志	齋藤 和幸		
○折笠 昇	井口 久雄	小林 守	串田 鉄夫		
企画部					
◎大塚 明	上原 正雄	外山 晃			
○渋谷 吉則	白石 光夫				
事業部					
◎齊木 勝	徳永 哲夫	深川 祝夫	真田 明		
○中澤 淳一	伊藤 勝夫	本田 敬二	古嶋 秀一		
広報部					
◎新保 弘	大塚 和雄	鈴木 輝正			
○伊藤 恒彦	長谷川一成	高橋 英一			

会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成19年度 H19.11月	平成20年度 H20.11月	平成21年度 H21.11月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月
正 会 員	164	275	285	288	295	292	293	296	298
賛 助 会 員	個人	-	2	1	1	1	1	1	1
	法人	-	182	174	163	152	152	152	156
計	164	459	460	452	448	445	446	453	455

編集後記

今年は理事や各部員が業務に慣れたこともあり、当センターの事業活動が順調に行われました。また、役員の変更とともに各部員の刷新が図られました。植木理事長以下各理事監事部員の皆様ご苦労様でした。

今後、山岸新理事長の下、新役員・部員の皆様には、今までの実績を踏まえ新たな感覚で当センターをさらに発展させて頂けることを期待しペンを置きます。(Y.S)



特定非営利活動法人(NPO法人)
にいがた地域創造センター

理事長 山岸 守

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18
(財)新潟県建設技術センター内3階
TEL/FAX (025)267-4877